



穴窯に薪を入れて1200度を保持する学園生たち

布引の丘には、県立の児童自立支援施設「淡海学園」があります。学園の一角には穴窯があり、焼成には火入れから窯出しまで数日間 に渡って火の管理を学園生と職員で協力しておこないます。学園生が焼成した作品は学園内に飾られています。その中から数点を市民センターの玄関ロビーにも展示していただきました。感性あふれる陶芸作品は、来所される住民の方々の目に触れ親しまれていました。

また、ロンドンオリンピックが開催されたので、スポーツをテーマにした紙粘土の作品を製作され、こちらも躍動感に満ちた作品をロビーに飾ってあります。

「淡海窯」から生まれた作品

大野地域市民センター



7月22日、朝宮地域の高齢者を対象に、ふれあい いきいきサロンが開催されました。NPOの方に講師をお願いし、参加者自らがそば打ち体験。初めての方もいらつしゃったようで、講師の指導をいただきながら悪戦苦闘。中には、細いものや太いものと、少々不揃いなそばも出来上がりました。厚食をかねて、打ったそばをみんなで楽しくいただきました。他でもない自分たちが打ったそばの味は格別だったようで、和気あいあいと話が盛り上がりしました。

太いのはご愛嬌ですが、そのそばのように、みなさんが「太く」「長く」お元気でいらつしゃることを願っています。

いきいきサロンでそば打ち体験

朝宮地域市民センター



今年度から開始しました「まちの保健室」は、5・6月は岩上地域市民センターでの相談を行いました。7月からは地域に向いて開催することになりました。7月27日は、和野区で実施されていますサロンにお邪魔しました。和野区では毎週金曜日に、百歳体操を開催されていて、毎回、15人ほどの方が参加されています。当日は、体操の後、公立甲賀病院の理学療法士奥野先生の体力測定やお話があり、そのあと、血圧測定、健康相談を実施しました。

百歳体操を和野区で始められて、今年10月で丸2年が経過するようですが、皆さん顔見知りの方ばかりで、和気あいあいと体操をされておりました。体操を続けていて、いすからの立ったり座ったりが楽にできるようになったという方もあり、体操の効果が出ているようです。これからますます、お元気で続けていただきたいと思います。

まちの保健室を和野区サロンで開催

岩上地域市民センター



7月28日に甲南町赤十字奉仕団杉谷班による防災訓練が杉谷公民館で行われました。今年度に杉谷区で揃えられた釜や鍋、かまどを使い、災害時にガスや電気が止まっている状態を想定して、薪を燃やして釜でお米を炊く方法と、炊飯用ポリ袋「ハイゼックス袋」にお米を入れお湯で炊く方法について、準備から炊き上がるまでの工程から、おにぎりをつくるまでを研修され、その後、試食体験を実施されました。

いつ起こるかかわからない災害に備え、参加者全員が自分たちで出来ることとして迅速に対応できるように、実践的な訓練を通して貴重な体験をする場となり、地域の安全・安心のために一生懸命に取り組まれています。

地域の安心・安全のために

甲南第二地域市民センター

自治振興会の活動内容を紹介しています

山内自治振興会

基本方針(スローガン)

フロンティア精神で明日の山内に貢献できる組織へ

山内自治振興会では、山内学区の皆さんが今一番地域で問題だと考える「若者定着」「鳥獣害対策」「少子高齢化対策」に真正面から向かい合うという大変難しいチャレンジをしています。

運営いただく63名の委員も一人ひとりの負担を少なくする為に「1人1事業のみ担当」に特化して取り組んでいます。

「山内フロンティアスピリット」で挑むハードな事業

①「美しい里山再生事業」

国の間伐造林補助制度が変わったため、個人が間伐補助事業をすることがより困難になりました。そこで山内自治振興会が個人地権者をまとめ、甲賀森林組合とタイアップして集団間伐を促進する事業を行っています。



▲涼しげな遊歩道ができた美しい里山再生事業

②「地域消防器具安全点検事業」

学区内の区所有消防器具が自主点検できない状態になってきたため、消防団に協力いただいて各區ごとに毎年1回自主点検と消防訓練を実施しています。

③「鳥獣害対策事業」

まず捕獲のための体制を整え、3年間で全区に箱わなを設置していきます。そして、エリア分けをした上で、精度の高い対応をめざします。昨年は鹿22頭を捕獲しました。



▲箱わなの設置

また、捕獲した獣の肉は、今全国的に広がりを見せるシビエ料理として地域で料理講習会を開き、この森に生きる命と向き合い、そして恵みとして美味しくいただくということを知る機会を設けています。

④「ふるさと資源活性化事業」

遊休農地が一段と増える中において、荒廃していく田畑を有効活用していく方策に取り組んでいます。昨年より山菜「コゴミ」の試験栽培をしており、今年は新たに大規模の田畑

地域の課題に果敢に挑戦

山内自治振興会では「自治振興会ができたからこそやれること」にその重きをおいて、地域が困っている問題に果敢に挑戦していきたいと思っています。その歩みは、山内フロンティアスピリットとして、明日の山内に貢献できる組織をめざします。



▲試験栽培している「コゴミ」の観察